



新春を清々しい気持ちでお迎えのことと、お慶び申し上げます。旧年中は大変にお世話になり、誠にありがとうございました。今年も皆さまのお声に耳を傾け、現場第一主義で、立党精神である「大衆とともに」を胸に、全力で働いてまいります。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

山下てつや



## 2022年 第4回定例会 一般質問から

# バイオエネルギーセンター 安心・安全の運転を!

町田市バイオエネルギーセンターが稼働して1年が経ちました。同センターは市民にエネルギーを供給すると同時に、地球温暖化物質の排出が少なく、ごみ処理ができるという利点がありますが、1年が経過し、メリットとともに見えてきた改善点について、議会で質問しました。

### ① 専門家も交え、住民目線で厳しく監視を強調

一つは、窒素酸化物の排出が自主規制値を超えるという問題です。市は「法令の規制値より厳しい自主規制値について、運転上継続的に管理し、安定化させることが課題である」と述べるにとどまりましたが、「規制値を超える状態が改善されない場合、設備を停止して点検する」と定めている点に鑑み、専門家を交えた検討の必要性を訴えました。今後も住民目線で厳しく監視していきます。

### ② 「分別教育」の重要性訴え

もう一つは「分別教育」の重要性です。スマホなどに使われるリチウムイオン電池の回収が徹底できるよう強調しました。町田市では小型充電式電池のリサイクルを推進する一般社団法人「JBRC」がリサイクルを行っていますが、輸入品には適用されません。事業者によるリサイクルが行われている東京・瑞穂町では、国産、輸入品を問わず資源としての回収が進んでいます。今後、民間も活用した資源リサイクルの強化を進めるべきと訴え、市も前向きな検討を約束しました。子どもの教育の一環として、ごみ分別教育の重要性も合わせて強調しました。



## 「子ども発達センター」の機能を強化!

町田市の児童福祉には、障がい者の子を持つ親御さんの多くが、市内で子に医療を受けさせられないという課題があります。今年4月の児童福祉法の改正にともない、「町田市子ども発達センター」を軸に、町田市でも福祉と医療の一元化を進める動きがあります。そこで、同センターの機能を強化し、重度障がい者への医療や小児神経医療などが行えるようにすることを訴えました。市も新たに整備する複合施設のコンセプトとして「子ども・子育て支援を切れ目なく受けられることができる施設」を掲げていると答弁しました。今後も福祉・医療の拠点整備で、子ども・子育て支援を進めていきます。

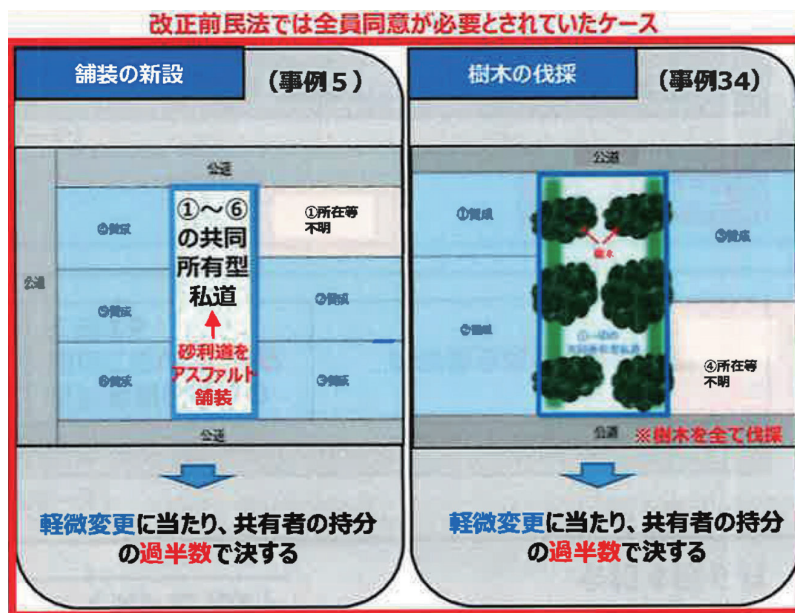




# 共有名義私道整備補助事業 4月から過半数の賛同で可能に

共有名義の私道の整備事業は、一部を除いて所有者全員の賛同が必要でした。民法改正を受け、所有者不明私道の対応ガイドラインの見直しの一環として、共有名義私道の対応に関して質問しました。

市は私道舗装整備補助事業に関して、2023年の4月から開始予定で過半数の同意によって補助を受けられるよう見直す方針を明らかにしました。新制度では、排水溝の整備など簡易な工事も、過半数の賛同で実施が可能になります。



法務省民事課局発行資料

抜粋

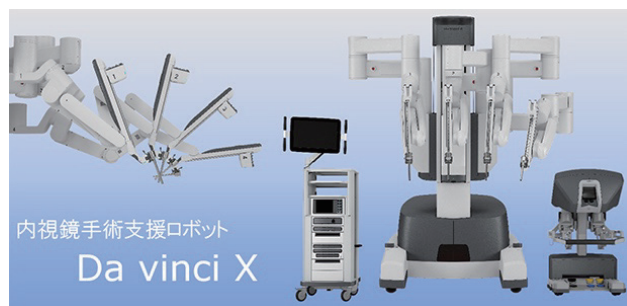
## 12月議会補正予算

# 新生児臨時特別定額給付金 支給事業

コロナ禍や物価高騰の影響が育児用品にも及んでいることから、国の交付金を活用して、対象となる新生児の保護者に対して10万円を給付します。

# 町田市民病院 内視鏡支援ロボット「ダヴィンチ」を導入

「ダヴィンチ」とは、腹空鏡や胸空鏡などの鏡視下手術をサポートする医療機器です。ダヴィンチによるロボット支援手術のメリットは、患者への体の負担が小さく、高精度で、さらに、手術器具の可動域が非常に広く、手振れ補正機能があり、3D立体画像を見ながら手術が可能で高い安全性が確保されている点です。町田市民病院で対象となる主な疾患は、前立腺がんや直腸がんです。



町田市民病院ホームページから

## 道路整備

歩行空間を確保するため、町田街道の滝の沢横断歩道付近の整備工事を実施し、障害物の撤去を行いました。



## 山下てつや YAMASHITA Tetsuya

市議会公明党幹事長  
公明党町田総支部 都市農業対策部長

昭和40年、東京都生まれ。青山学院大学経営学部を卒業後、新東亜交易株式会社に勤務。平成18年、町田市議会初当選。妻と2男1女の5人家族。モットーは「現場第一・対話第一」。下小山田在住。

